

第21回定時株主総会の質疑応答概要について

本年6月27日開催の当社第21回定時株主総会について、その実施概要および株主様との質疑応答の概要について、以下の通りご報告いたします。

1. 定時株主総会実施概要

開催日時 2023年6月27日（火）午前10:00
開催場所 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号
帝国ホテル本館2階 孔雀の間
所要時間 1時間49分（前回：1時間28分）
出席株主数 310名（前回：190名）

2. 質疑応答の概要

事前質問への回答

1) JFEスチールの老朽設備を起因とした災害およびその責任について

【回答】

JFEスチールにおいて老朽設備を起因とした重大災害が発生したことについては、これを重く受け止め、2016年以降、全社的に製造基盤整備活動を展開しております。補修費や安全に関する投資を拡充するなど、必要と考えられる対策を実施してきており、JFEスチールの役員がその任務を怠っているとは考えておりません。また、当社としても安全の取り組みの進捗やその実効性を確認するとともに、社外役員も含めた取締役会において適時適切に審議し監督してまいります。

株主総会における質疑応答

1) JFEスチール東日本製鉄所池上地区の土地問題について

【回答】

池上地区については、空き家撤去等の防災・保安上必要な措置を講じながら、会社資産として適正な活用、管理を図るための現実的な方策を整理すべく、行政、町内会の関係者と協議を進めています。昨年度も法的手続きの完了した空き家の撤去を進めており、引き続き各行政当局とも連携しながら取り組んでまいります。なお、当該地区に係る昨年度の固定資産税は1千万円程度となっております。

2) JFEグループのカーボンニュートラルに向けた取り組みについて

【回答】

2050年のカーボンニュートラルに向けて、鉄鋼事業の二酸化炭素排出量削減と社会全体の二酸化炭素排出量削減貢献の二つの軸で進めていきます。鉄鋼事業においては、超革新的な技術開発を加速し実装化の早期実現に取り組むとともに、低炭素、脱炭素化のお客様の要望に応えるべくグリーン鋼材を早期に供給し普及拡大を図ってまいります。エンジニアリング事業においては、太陽光、風力、地熱等の再生可能エネルギー事業の拡大および二酸化炭素から合成ガス・化成品へ転換するカーボンリサイクル技術や水素・アンモニア関連設備の技術開発、商用化により、社会全体の二酸化炭素排出量の削減に貢献してまいります。

3) 従業員への還元および役員報酬について

【回答】

従業員への還元は非常に重要であり、継続して賃上げを実施しております。また、役員報酬額については招集ご通知に記載のとおりとなっております。

4) 株価について

【回答】

株価は重要な経営指標と認識しており、現在の株価は満足できる水準となっております。経営としては、鉄鋼事業における量から質への転換による収益改善や海外を中心とした成長戦略を着実に進め、第7次中期経営計画で掲げた財務・収益目標を確実に達成するとともに、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについても適時適切に開示し、鉄鋼業の将来性に関する懸念を払拭することにより、資本市場における評価を高めるよう努めてまいります。

5) 取締役会の実効性について

【回答】

当社の社外役員の在任期間は比較的長くなっていますが、巨額で多岐にわたる長期の投資が必要な鉄鋼業の特性をふまえると、取締役会での活発な議論のためにはある程度の期間在任して事業内容を理解する必要があると考えております。取締役会および事前説明の場等において、社外役員からの、社内とは異なる多様な視点での活発な意見や助言により議論が活性化され、取締役会の実効性が確保されていると考えております。

6) カーボンニュートラルに向けた水素の確保について

【回答】

政府が水素基本戦略を策定していますが、国内の高炉法による粗鋼生産の全量を石炭から水素に置き換えるためには年間1000万トン程度の水素が必要との試算もあります。現時点においては、豪州における水素プロジェクトやJFEスチール京浜地区の扇島に水素・アンモニア等の受入・供給拠点を整備する計画が進んでいるものの、水素確保の道筋は途上であり、JFEスチールとしては、安価な電力を確保できる地域からのグリーン水素の輸入やその水素を活用した還元鉄を輸入するなど、複線的な対応を進めてまいります。

7) PBRについて

【回答】

資本市場から十分な評価を得られておらず、現在PBR（株価純資産倍率）も1倍を下回っており、満足できる株価水準にはなっておりません。PBRの改善を目指し、まずは公表した今年度の利益を確実なものとし、さらに来年度は第7次中期経営計画の目標を上回る利益を確保することで安定した収益性を示したいと考えております。また、鉄鋼業の将来に対する不安を払拭すべく、カーボンニュートラル技術の研究開発を推進し、当社の技術的な優位性を適時適切に示していくことで、資本市場の評価を高めていきたいと考えております。

8) コンプライアンスについて

【回答】

JFEエンジニアリングの社員3名が起訴された事案については、同社社員の裁判が係属しておりますが、原因究明と再発防止に取り組んでおります。また、内部通報制度を適切に構築し運営するなどグループとしてコンプライアンス体制を整備してきておりますが、今後もコンプライアンスに係る取り組みを継続して強化してまいります。

9) 企業コマースについて

【回答】

JFEグループ全体の認知度の向上に加え、特に若手従業員のエンゲージメントの向上や新入社員の採用力の強化を目的として実施しており、今後も効果を見ながら継続していきたいと考えております。



10) グループ会社における環境対策について

【回答】

法令および地方自治体との協定を遵守し行政にも指導を仰ぎつつ、また自治会を通じて住民の皆様のご理解も得ながら、環境改善に取り組んでいると認識しております。引き続き改善を図るように J F E スチールとしても指導してまいります。

以 上

